

第 20 回荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 議事要旨

平成 20 年 8 月 31 日(日)、「第 20 回荒川太郎右衛門地区自然再生協議会」が開催されました。今回は、太郎右衛門地区の自然再生事業実施計画の当面取り組んでいく内容や、今後の進め方について協議しました。

【議事結果】

- 協議会委員の新規応募者について、次回協議会からの参加が承認された。
- 当面の実施計画の施策のうち旧流路の保全の整備内容（上池の掘削、上池呑口の切り下げ）、ならびに当面の試験施工の進め方（上池の試験掘削、湿地環境創出試験、ハンノキ林の育成試験）について、事務局案で承認された。
- 当面の実施計画案の維持管理について協議会へ提出するたたき台は、ワーキンググループ（仮称）で検討していくことが承認された。

【主な議事内容】

●途中参加委員について

協議会への途中参加の意思表示があったため、協議会設置要綱第 7 条（途中参加委員）に基づき参加の可否を諮ったところ、承認されました。

●実施計画の施策（案）について

当面の実施計画の施策のうち、旧流路の保全に係る整備内容(案)（①上池の掘削、②上池呑口の切り下げ）及び当面実施する試験施工(案)（①上池の試験掘削、②湿地環境創出試験、③ハンノキ林の育成試験）について、事務局案を提示し、協議を行いました。

(主な意見)

- 上池呑口の切下げについて、流入頻度の改善度合いが示されているが、どのような状態を期待するのか。切下げ高の設定根拠が不明瞭である。また、現況では呑口から上池へ逆勾配になっているが、この勾配を改善するだけでも上池への流入は増えるのではないか。
 - 60cm の切下げ高は、周辺地下水位の観測結果より、地下水位の平均的な高さとして設定している。
- 旧流路が本川であった 70 年前から、現在の本川はどの程度河床低下しているのか。70 年前の本川と上池の河床高の関係も考慮して呑口高等を設定する必要があるのではないか。
 - 最深河床高で 5m 以上低下しており、かつてとはまったく違った環境となっている。昔の姿に戻すことは困難なため、乾燥化を防ぐ対策としてできることから進めていきたい。
- 増水により上池が冠水した場合、どの程度の期間で水面が消失しているのか。
 - 現状の上池では、約 2 ヶ月で 1m ほど水位が低下している。池を掘削することにより、地下水が湧出し、安定した水面が形成されることが期待される。
- かつて、上池では湧き水があった。掘削すれば必ず水は出てくると思う。
- 旧流路は、増水時に魚類の避難場所として機能している。整備に当たり、魚類の移動にも配慮するよう心がけてほしい。
- 鳥類や他の生物の利用にも配慮したい。また、施策実施により植物以外ではどのような生物が生息するようになるか、分かりやすく示して欲しい。
- 試験施工の進捗状況について、事務所のホームページ等でこまめに紹介してほしい。
- 上池呑口の切下げについて、効果の発現状況によっては手法の見直しが必要になる可能性がある。現況の呑口を撤去して新しい呑口を新設するのではなく、別口をもう 1 つ設け

るようにしてはどうか。モニタリング調査結果等を踏まえながら、フレキシブルに対応できるようなやり方のほうがよい。

●ワーキンググループ（案）について

ワーキンググループ（案）の開催について事務局案を提示し、協議を行いました。

（主な意見）

- ワーキンググループの考え方に賛同する。ぜひ参加したい。
- 自然体験のプログラムを作成し、実施していくことになるのだと思う。この時、国土交通省の助成金のような制度が適用できるとよい。
- ハンノキの育成試験などは、体験的環境学習と組み合わせて実施していく方法もある。
- 外来植物の進入が著しい。ボランティアの活動には限界があり、何らかの対策をとってもらいたい。
- ワーキンググループでは、会の名称も含めて、様々なことを議論していきたい。

以上